

## ○ 福岡市から三河港シーフルー事業の視察に！

2月25日、福岡市港湾局環境対策部環境対策課2名が三河港西浦地区へ視察に訪れました。福岡市では、博多湾の人工島「アイランドシティ」北東に位置する和白干潟において、「干潟を中心とした豊かないのちを育むゾーン」として浚渫土砂を活用した人工干潟の整備を予定しており、先駆的な事例として人工干潟に取り組んでいる三河港を視察の対象に選ばれたものです。



視察で訪れた竹島



西浦の人工干潟

視察時はちょうど干潮で、長靴を履き干潟をひとたび掘り返すと、水質浄化機能の高い二枚貝類であるバカ貝がザクザク生息している様子を観察することができ、干潟の機能を改めて実感されていました。

## ○ 窪地（くぼち）埋め戻しによる環境改善

三河湾は、波が穏やかで浅く、水産資源に恵まれた豊かな海です。愛知県は製造品出荷額が30年連続日本一であり、ものづくりのイメージが強いですが、漁業も盛んで、アサリ類、シャコの生産量は全国1位、ウナギの生産量は全国2位となっています。

三河湾奥部の御津地区、大塚地区には、土地造成のために海底土砂を採取した際にできた周りの海底（水深約4m）より3～4m深い窪地が存在していました。窪地内は周辺との海水の交換が行われにくく、春から夏にかけて無酸素状態となり、生き物が暮らせない場所となっています。また、その無酸素のかたまりは風や潮の流れで移動し海面付近に上昇すると苦潮（青潮）となり、平成14年には周辺海域でアサリの大量死をまねき、水産業に多大な被害を与えました。当事務所では愛知県と協力して窪地の埋戻し工事を実施しています。埋戻す土砂は三河港の航路や泊地整備で発生する浚渫土を活用しています。



浚渫工事の様子



窪地の位置図

平成15年3月より御津地区の埋め戻しが始まり、平成16年度末までには窪地の大部分を修復し、現在は埋め戻した箇所を良質な土砂で覆う工事を行っています。また、平成17年度からは大塚地区の埋め戻しに着手し、ほぼ完了しました。

窪地の埋め戻しによる環境改善により、御津地区では無酸素状態が減少し、アサリの大量死も発生することなくたくさん採られています。

今後も三河湾に生き物と呼び戻し、少しでもきれいな海にしていける取り組みを引き続き実施していきます。



Mini-WANとは

三河港湾事務所では従来から発行している広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

### ■巻頭コラム

### ■最近のトピックス

○三河港に2基目のガントリークレーンを設置！ ○北九州から衣浦海底トンネルの視察に！

○第4回「美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ」開催

○「三河港自動車港湾シンポジウム」開催 ○「運河サミットin半田」開催

○環境改善試験工事を実施しました ○福岡市から三河港シーフルー事業の視察に！

○窪地（くぼち）埋め戻しによる環境改善

■お知らせ 4月1日よりカメリア展望室の開館時間に変更になります！

### ☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

昨年夏から、家庭菜園にトライしています。といっても、初心者で家に庭もないので、まずはプランターでベランダにて。しかも、種からではなく、苗になったもので始めました。

最初は、比較的育てやすいというミニトマトに挑戦。毎朝プランターに水をやるのが日課になりました。ぐんぐん育ち、たくさんの実がなりました。しかも、順番に熟してくるので、夏の終わりごろまで、新鮮なミニトマトが食卓を彩りました。

10月になり、もう1つプランターを買い、2種類のハーブ（ローズマリー＆バジル）がベランダに登場。これも順調に育ちましたが、バジルの方は、残念ながら冬場には元気をなくしてしまいました。ローズマリーは現在も成長中です。

11月には、やや難しいと聞きましたが、田原市が生産量日本一のブロッコリーに挑戦してみました。ところが、購入してしばらくすると葉が枯れだし怪しい雲行き。あわてて肥料を追加してなんとかピンチをしのぎましたが、ブロッコリー農場で見るような太い茎になかなかってくれません。結局小ぶりのまま収穫を迎えました。ですが、味は抜群でした。

農業を純粋に楽しめるとともに、ごくわずかですが、地産地消にも貢献。また、自分で手間をかけるためか、美味に感じます。次は、ジャガイモにチャレンジする予定です。

### 「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと  
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1  
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地  
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail [info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp](mailto:info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp)

### ☆お知らせ☆

4月1日よりカメリア展望室の開館時間に変更になります！

平日：9時～17時

土日祝：4月から9月 9時～20時

10月から3月 9時～19時

ポートインフォメーションセンター カメリア  
(豊橋市神野ふ頭町3-29 0532-34-3712)



高さ30mの展望  
室から、三河港が  
一望できます。



★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

## ○三河港に2基目のガントリークレーンを設置！

2月中旬、三河港神野ふ頭8号岸壁に三河港2基目となるガントリークレーンが設置されました。ガントリークレーンとは、コンテナを船に積み降ろしするための特殊なクレーンのことです。ゲームセンターのUFOキャッチャーの巨大なものと思って頂くとイメージがわきやすいかと思います。

船舶用のコンテナは1950年代にアメリカで発明されましたが、積み降ろし時間の大幅な短縮、陸上のトラックとのスムーズな連携といった利便性等により、瞬く間に世界中に拡がりました。三河港でも、コンテナ貨物は堅調な増加傾向にあり、2基体制となることで今後の需要にも着実に対応できることとなります。

4月からは、第3セクターである三河港コンテナターミナル（株）が管理運営を行っていく予定となっており、2基目の稼動が三河地域のさらなる発展に寄与することが期待されています。

## ○北九州から衣浦海底トンネルの視察に！

2月5日、北九州市、北九州市道路公社、国土交通省北九州港湾・空港整備事務所から8名の方が、沈埋式海底トンネル方式で整備されている北九州港新若戸道路の参考にするため、同じ方式で造られた衣浦海底トンネルを視察されました。

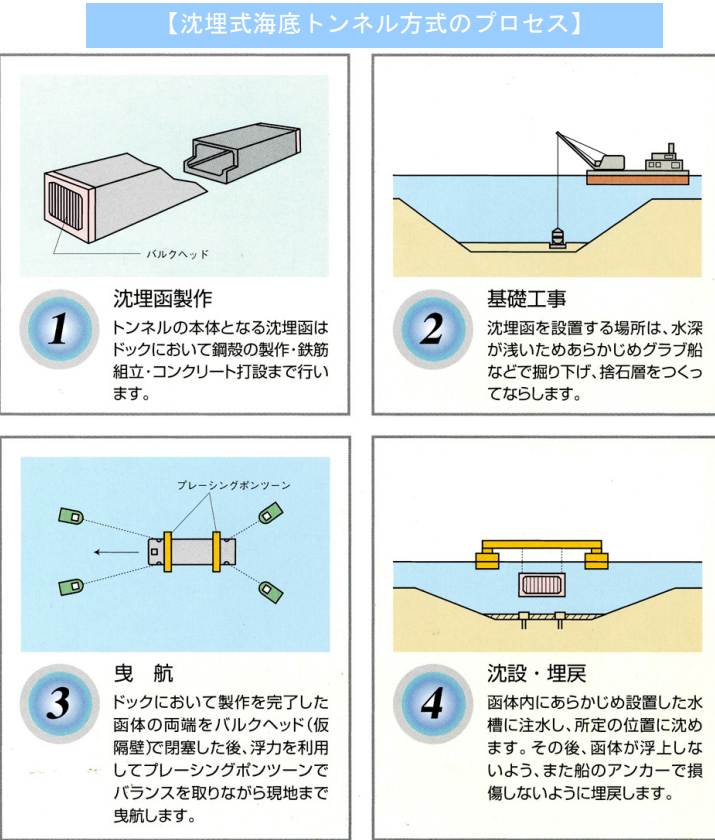
沈埋式海底トンネルは、造船所など陸上で、長さ100m程度の直方体を造り、海面に浮かせて現地まで運びます。船で運ぶ際、海水がトンネルの中に入らないよう、出入り口となる両端に蓋を取り付け、海底に沈めた後で外します。海底の下に直接トンネルを掘る方法（シールド工法）に比べ、より浅い場所にトンネルを設置することができるため、陸地に近くなる分、トンネルの全延長も短くなり、低コストとなるメリットがあります。

愛知県道路公社、当事務所から衣浦海底トンネルの概要を説明した後、当事務所で海底トンネルを施工した経緯、トンネル内に設置されている機器、供用後の管理体制などについて現地を確認しながら意見交換を行いました。

## ○第4回「美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ」開催

2月12日、第4回「美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ」が日間賀島公民館にて開催されました。今回は、第1回で講演していただいた地域活性化プランナーの藤崎慎一氏をむかえ、これまでのワークショップを通して河和・豊浜・日間賀の3地区でまとめてきた地域活性化案の最終発表が行われました。「誰が」「いつまでに」「何をするか」をテーマに発表された各地域の方策に対して、するどい質問や様々な意見が交わされ、自分達の手で作ってきた活性化案の実現へ向けての熱い議論がなされました。

全4回のワークショップの成果として、今後、美浜・南知多地域で様々なイベントなどが開催されていく予定です。本誌でも随時お知らせ致しますので、さらに活気あふれた知多半島にご期待ください。



## ○「三河港自動車港湾シンポジウム」開催

2月15日、「三河港自動車港湾シンポジウム」（国際自動車コンプレックス推進協議会主催）がライフポートとよはしで開催されました。

三河港における「国際自動車コンプレックス計画」は、自動車産業を核とし、国際的なビジネス連携の場の整備・提供を目的とした地域の戦略プロジェクトで、今回は、「静脈物流」「中古自動車」「産業防災」をテーマに講演が行われました。国土交通省港湾局国際・環境課加藤博敏環境企画官より、「リサイクルポートの取り組み」として、全国のリサイクルポートの状況報告や支援制度が紹介され、神戸市みなと総局経営企画部企業誘致課大岩根禎一誘致第一係長より、「中古自動車等物流の現状と課題」として、中古自動車オークション企業の神戸港への誘致によって地域が活性化したことが報告されました。当事務所塩田昌弘所長は、「港湾の防災」として、ものづくり中部において災害等により港湾機能が停止した場合のリスク、物流機能を維持できる体制づくりの重要性について説明しました。

## ○「運河サミット in 半田」開催

2月25日、半田市福祉文化会館（雁宿ホール）において、市制70周年記念事業・愛知県景観シンポジウム「運河サミット in 半田」が関係者や市民など約500人参加のもと盛大に開催されました。

主催者である榊原伊三半田市長の挨拶で始まり、伊藤忠彦衆議院議員をはじめ、富田英治国土交通省中部地方整備局副局長、永田健国土交通省中部運輸局企画観光部長より来賓からの祝辞がありました。

シンポジウムでは、名古屋市立大学大学院の瀬口哲夫教授が、周りに赤れんがなど歴史的建築がある小樽運河（小樽市）、堀川運河（日南市）、半田運河（半田市）は、映画のロケ地にもなる「美しい運河のあるまち＝日本三大運河」を提唱する基調講演を行いました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、運河を抱える山田勝磨小樽市長、谷口義幸日南市長、榊原伊三半田市長及び（株）JTBパブリッシング取締役編集制作本部長鳥澤誠氏から各地の運河の保護・観光への活用などみなとの賑わいづくりについて報告がなされ、行政と市民との協調の重要性など運河を活かしたまちづくりについて意見交換が行われました。

## ○環境改善試験工事を実施しました

三河港湾事務所では、三河湾の環境改善を目的として、航路（船の通り道）や泊地（船の停泊場所）を掘り下げる際に発生する土砂（浚渫土砂）の干潟・浅場造成等への活用について、昨年度から検討しています。今年度は、昨年度の室内試験で安全性が確認された材料を、実際に海に投入しました。試験工事を行った場所は三河湾内の三谷地区です。

材料としては、浚渫土砂にスラグ（製鉄の際に発生する副産物）やダム堆積砂を混合したものを使用し、全部で4種類のマウンド（20m四方、高さ1m程度）を造成しました。今後は、この造成した4種類のマウンドについて、定期的に水質調査、底質調査、生物調査等を実施し、干潟・浅場造成等の材料としての適性について検討を実施していきます。

